

山口県がん化学療法チーム研修会

「免疫チェックポイント阻害薬の有害事象マネジメント」開催報告

山口大学医学部附属病院
腫瘍センター事務局
原田幸恵

令和3年3月6日（土）に、山口大学医学部附属病院腫瘍センター主催で、山口県がん化学療法チーム研修会「免疫チェックポイント阻害薬の有害事象マネジメント」がWEBで開催されました。本研修は、山口県のがん化学療法の医療レベルの更なる向上を図るために、山口県内のがん診療連携拠点病院を含めた化学療法を行っている医療機関の多職種（医師・薬剤師・看護師・MSW）によるチーム研修となっており、4施設21名の参加がありました。

当院の永野浩昭腫瘍センター長の開会挨拶に始まり、次いで山口県健康福祉部からの挨拶と講師紹介の後、看護師、薬剤師のそれぞれの立場からの講義が行われました。講義はまず、「免疫関連有害事象マネジメントチームの紹介」が、本院の沖村看護師より説明があり、次に、「免疫チェックポイント阻害薬の副作用について」本院の松井薬剤師より説明がありました。

各参加施設紹介の後、グループワークの症例提示が、本院の井岡医師よりあり、指定された症例について各施設で検討を行いました。多職種で問題点を抽出しあい情報共有し解決策を考えて、最後に発表していただきました。研修会全体を通じて様々な意見や質問が活発に出され、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができました。

参加者からは、「日常臨床に直結した非常に有意義な会でした。」「普段、化学療法患者さんについて多職種とのカンファレンスを行っていなかったのが、改めてチーム医療の大切さを実感できる機会となりました。また、他病院の関わり方も知ることができ勉強になりました。」「他職種で患者の今後の治療や方針を決めていくことはとても大事であり、日ごろの業務の中でも当たり前に行っていくことが出来るのが理想ですが、なかなか出来ていないのが現状であると感じました。治療だけでなく患者の生活を見据えた上での治療の選択肢を提示する事、再確認できました。」など多くの意見が寄せられました。

今回、初めてのWEB開催による研修会でしたが、大きなトラブルもなく有意義な研修会となり無事終了することが出来ました。

腫瘍センターでは、これからも医療従事者に向けた様々な研修会を計画していきたいと思っておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

《研修会講師&事務局》

